

令和8年度 第1回 技術交流会議の概要

技術移転部 教授 木村吉寿

7月2日（木）午後、農村工学研究部門において、恒例の農林水産省農村振興局の情報分析官6名との情報交換のための「第1回 技術交流会議」を対面／Web ハイブリッド形式で開催しました。国際農林水産業研究センター（JIRCAS）から農村開発領域長にご参加頂きました。この会議は平成23年度より基本的に毎年2回開催しており、今回は令和8年度の第1回の会議になります。

情報分析官の方々は、高度に専門的な知識と幅広い経験をもとに、多岐にわたる現場の抱える課題解決や様々な政策や事業を効果的に推進するために、現場の農業・農村の事情に即した課題を設定し、各種情報の収集、分析および政策提言等をされています。本会議では、各情報分析官が今年度取り組まれる課題・テーマ別の方針や分析状況などを情報提供いただくとともに、当部門からも研究成果情報について発表し、双方の情報交換を通じて行政現場における調査研究や技術開発のニーズや、研究成果の行政現場への適用可能性などについて意見交換し、研究と行政の連携を図ることで双方にとって有意義な成果を生み出す、橋渡しの役割を担う貴重な機会となっております。

今回は、当部門から研究成果の発表を2題行いました。まず、水利工学研究領域の向井グループ長より「水上無人機を活用した施設管理者主体の3次元堆砂測量手法の提案」と題して、動画も駆使して比較的安価で施設管理者が使いやすい堆砂形状の測量手法を紹介しました。次に、資源利用研究領域の石井主席研究員より「みどりの食料システム戦略を推進する省エネ・脱炭素農業の切り札ーゼロエネルギーグリーンハウス（ZEG）ー」と題して、保温カーテンにより断熱性能を高める省エネ効果と地下水ヒートポンプによる創エネ効果により、温室（グリーンハウス）で消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した実証実験の効果検証について紹介しました。どちらの発表に対しても分析官の方々から活発なご質問やご意見が寄せられ、ダムの堆砂対策や施設園芸における脱炭素化の取り組みは農業農村工学分野において極めて重要な課題であることが改めて認識されました。

続く、情報分析官の皆様からのご発表は、前年度からの継続の分析テーマが4題、新規の分析テーマが6題と、主に今年度の取り組み方針についてご説明がありました。テーマは、冷水供給効果計測のためのSAR衛星利用、情報化施工した工事の分析、国際的なかんがい農業の水利用効率指標に関する分析、海外におけるダムの堆砂対策に関する情報収集・分析、水管理制御システム更新・改修による省エネルギー効果の検討、情報通信環境整備の推進、農道橋の保全管理のあり方、機械学習を用いた豪雨災害被害額推計、スマート田んぼダムによる湛水防除の可能性、ため池等を活用した揚水発電のポテンシャルなど、いずれも農業農村整備行政の現場が直面する様々な重要課題や政策を推進するうえで

大変重要なテーマであり、研究者にとっても大変興味深い内容で、当部門側からも詳細な内容についての質問や研究で得られた知見の紹介など意見交換を行いました。また、総合討論の場では、“研究と行政の連携をもっと高められないか”などが話題となり議論を深めました。最後に、代表して桃澤災害情報分析官より閉会の挨拶をいただき、農工研からの情報提供・意見について大変参考になった旨のコメントをいただきました。本会議を通じて一層の相互理解が深まる有意義な機会であったと確信します。年度末に向けて更に大きな発展につながる萌芽となることを祈念いたします。

最後に、本メルマガ会員の研究者の方で本会議の分析テーマに関心があり、共同研究など発展的なアイデアをお持ちの方は、当方までお気軽にご連絡・ご相談ください。



会議冒頭の状況



会議発表の状況